



新年に望んで

広報担当 副会長
玉城 信光

2010年である。21世紀に入り10年が経過した。20世紀の終わりに20世紀の矛盾を21世紀まで持ち越さない様にしたいと考えていた。21世紀の初頭に20世紀を壊す人物が現れたと考えている。小泉さんである。種々批判も多い、特に社会保障費を削りに削って来たおかげで医療が疲弊しているのはご承知の通りである。しかしながら誰もそれに逆らうことはできなかった。それが時代の流れであると考えている。

次に現れるのが新しい価値観をつくることである。政権交代がおこった。これも時代の流れである。しかしながら現政権も新しい価値観を創りかねている。新しい価値を創り出すにも少し時間が必要であろう。いろいろな角度から意見がだされ、それを集約する組織が必要になる。現在の枠組みのみで考えるのではなく、何が大切かを考え、何を創っていけばよいのか、多くの意見が出される中で自然と集約する組織が形成されるであろう。沖縄の医療の中で沖縄県医師会がそのような組織になりたいものである。

2010年は沖縄の医療で画期的なことが始まるのである。地域医療再生基金が交付されるであろう。「おきなわシミュレーションセンター」が建設されるのである。全県的な運営を考え、日本最先端のシミュレーションセンターにしたものである。沖縄のすべての医療人が研修を受け、技術、技量の向上を図っていくのである。地域住民にはAED講習会や蘇生術の講習を行っていくのである。

また、そのシミュレーターを医学部、理工学部や民間のIT企業が一緒になり更なるバージョンアップを図る組織も作りたいものである。産官学の共同事業を造り出すのである。沖縄か

ら新しい事業の創出ができるかもしれない。先端シミュレーターがあるとアジアからの研修生も引き受けることができるようになるであろう。沖縄県の生きる道はアジアとの交流にある。アジアとの交流の先に沖縄の医療がアジアに貢献できる体制が更に構築されるのである。

地域医療再生で忘れてはならないのは離島・へき地を支えるネットワーク創りである。私だけですべてできるという概念は20世紀型である。種々の医療機関がおのこの力を十分に発揮してネットワークの中に入ってくるのである。これこそ21世紀型の地域医療再生であると考えている。誰かを充てにするのではなく、「だれ、かれのせいでうまく行かない」という観念を払拭しなければいけない。私は沖縄のために何をするのか何ができるのか。そのためには他の人たちとどのような連携をすることが良いのか真剣に考え、21世紀のあり方を創っていききたいものである。



2010年のご挨拶

広報担当理事
當銘 正彦

新年、明けましておめでとうございます。県医師会の広報委員として、2度目の正月を迎えることになりました。寅の本年も、宜しくお願ひ申し上げます。

昨年を振り返りますと、内外に盛り沢山の珍事・話題は尽きないのですが、県医師会の最大のイベントと云えば、何と云っても新会館のオープンだと思います。浦添市当山より南風原町字新川へ移転となりましたが、高速道路のアクセスを含め格段に便宜の良い地であり、周りには県立南部医療センター、薬剤師会、小児保健協会等が隣接し、近々には看護協会も近くに建設予定とのことで、今や南風原町字新川は一大

メディカルゾーンの様相を呈しています。大中小と使い勝手の良い会議室の設置も手伝って、会館は開設以来、諸々の会議や研究会等で引きも切らずに利用される状況であり、会館の設計、建設に尽力された担当役員の皆様の確かな英断に感服しております。

さて我が広報委員会は12名の委員と4名の事務局員の構成で、会報誌の毎月の編集会議を行っていますが、研究・教育論文や随筆、発言席コーナー等々への投稿、或いは会報誌の表紙を飾る写真への応募等々、会員の皆様の不断の、暖かいご支援に心からの感謝を申し上げます。昨年は会報誌の充実を期して1月～6月までの半年間、各地区医師会より推薦を頂いた22名の先生方にモニターとなって頂き、読者アンケートを実施しましたところ、沢山の貴重なご意見を頂きました。早速、新しい企画として取り組んでいるところです。

また琉球新報の「ドクターのゆんたく、ひんたく」、沖縄タイムスの「命ぐすい耳ぐすい」への投稿原稿も、広報委員会が担当部署として会員の皆様への執筆をお願いしているところですが、お陰様で滞りなく連載を続けることができています。

昨年はアメリカで初の有色人大統領が誕生したかと思うと、我が国でも戦後60年余にわたる長期政権を担ってきた自民党政権が、あっさりと民主党に政権を明け渡して仕舞いました。60年安保で戦後に区切りをつけ、70年安保で高度経済成長への弾みをつけ、世界No2の経済大国にまで昇り詰めた我が国ですが、90年代にバブルが弾けた後は、凄まじいばかりの世界の経済競争の中で、真の国民の幸せは何処にあるのか、その活路を求めて苦悩と迷走が続いています。我が医療界も、「医療崩壊」と云われるまでに桎梏が露呈し、今や緊急な対策と手当が求められている現状ではありますが、視界は必ずしも明瞭ではありません。

迎えた新年も五里霧中ではありますが、県医師会報誌はこれからも会員の皆様の心と心を繋ぐメディアとして、明日の沖縄の医療を支える

強力な武器になるべく邁進したいと思います。本年もご指導、ご鞭撻を下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。

2010年 元旦



2010年新年のご挨拶

広報副担当理事

野原 薫

明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

昨年8月の政権交代により医療政策にも変化の兆しが見えてきており、医師会の存在が問われています。医師会も変化するチャンスだと捉えて、更に発展することを希望しております。会員のための医師会、会員のための広報を目指しましょう。情報過多の現在、シンプルでコンパクトな会報が求められています。広報委員として12年間のご支援、ご指導、ありがとうございました。

皆様にとって今年も穏やかで良い年でありますようお願いしております。



五十にして天命を知る？

広報委員（北部地区医師会）

石川 清和

会員の皆様、あけましておめでとうございます。今年50代に突入する。これまでは、健康長寿、男と女の違い、人間の発達、無農薬野菜作り、自然環境保全をテーマにしてきた。

2男2女の子育てを通じ男児と女児の考え方、行動の仕方の違いを目の当たりにした事から、男と女の違いが実は性格的な問題だけでなく受

精直後に始まるものだと知った。ホルモン様物質があふれる現在、胎内でいろんな化学物質にさらされ、脳と体の男性化にずれが生じ、性不一致障害に悩む方も多くなっている。また男性脳は自閉傾向が程度の差はあれどあり、知能指数も標準偏差が大きい。女性脳は共感力が強く、知能指数も標準偏差が小さく平均値は中央値よりやや優秀なところにあると言われている。

解剖学的に女性は脳梁が男性よりも大きく、いろんなことが同時にできるようである。(会話中に、突然隣の人のお話に割り込んで行ったり、電話しながら料理をしたり・・・) 太古の昔男は狩猟に女性は子育てにと仕事を分担していく中で男性は空間を東西南北で読み取り、女性は木や物など目印で認識する、女性は地図が読めないのではなく男性とは違う読み方をしているのである。

医療においても男女の違いを当然のことながら認識すべきである。アメリカでは生活習慣の改善で男性の心筋梗塞の死亡率は低下してきたが、女性はほとんど変化がないと言われ、原因は微小血管狭心症にあると言われている。このような男女差を人間の発達史の中でも認識しながら、生活習慣病を改善する行動変容を効果的に起こすことをこれから50代の目標にしたい。



年頭の言葉は「新」

広報委員 (中部地区医師会)
比嘉 靖

会員の皆様、あけましておめでとうございます。一昨年は、沖縄の黄金言葉「あらたまの年に、炭と昆布飾て、心から姿若くなゆき」、昨年は「Yes we can!」を年頭の言葉としました。早いもので3度目の新年のご挨拶となります。さて、本年を象徴する年頭の言葉を考えていますと、清水寺での今年を象徴する文字が「新」に決定したという報道が耳に入りました。「新

政権」などを示す文字だと誰もが想像できるものでした。昨今の医療界は常に「新」しい物、制度、報酬などに対応を迫られています。常に「新」しいことに順応しようとする努力は知らず知らずに、己のレベルをいろんなレベルに高めてくれていると思います。

医師会報も会員の皆様のお言葉を頂き、期待される広報誌を目指して常に「新」しくかわり続けています。皆様からのコメントや皆様のご紹介などより身近な会報誌になれるように広報委員全員が努力しています。その中で私も「新」という年頭の言葉、文字を念頭において微力ながら会員の皆様に親しまれる会報誌の編集に携わっていきたいと思います。



新年のご挨拶

広報委員 (浦添市医師会)
池村 剛

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年、皆様にお届けした12冊の医師会報は読んでいただけましたでしょうか。今年も、重要な情報を正確に早く、読んで面白く、日々の診療に即戦力となるような、内容の濃い紙面づくりに努めてまいります。まずは、新年号はいかがでしたか。会員の皆様方からのご意見、ご感想などもお待ちしております。本年も宜しくお願い致します。

昨年の政権交代を中心とした社会情勢の変化は、医療を取り巻く環境を一層厳しくしております。社会の大きなうねりは、時代の流れに任せるしかありません。医師会は、この怒涛の流れの中で、舵取りを担っています。方向を見失わないよう進んでいって欲しいものです。

ところで、大きな流れはさておき、自分で出来ることとして一昨年から昨年にかけてメタボ解消のためダイエットに挑んでいます。順調に

体重は減少し、現在は少しリバウンド気みですが、メタボすれすれの線を維持しています。また、昨年は大腸カメラ検査も受けました。私のクリニックでは年間400例ほどの大腸検査を行っています。私自身は初めての体験です。見事に大腸ポリープが見つかり切除してもらいました。気になる症状が見られ、父親も大腸の手術を受けており心配でしたが、無事に治療も終わり「俺はついてるぜ」と周囲には吹聴しています。しかし、この経過は（症状が出てから慌てて検査を受けた）医者の不養生そのものでしょう。今年は自分自身の健康元年と考え、健康管理はメタボの改善から再スタートし、ほかの検診もしっかり受けていくつもりです。毎日家では仏壇に向かって、今年も良い年でありますようにとお願いしています。うちあたいる皆さんは、忙しくてもなんとか時間をつくり検診を受けてください。今年も、会員の皆様方にとって良い年でありますようお願いしております。

花水木の咲く頃

広報委員（那覇市医師会）
玉井 修

あけましておめでとうございます。

最近のマイブームは、辻井伸行氏のピアノを聴くことでもあります。2005年の第15回ショパン国際ピアノ・コンクールで批評家賞を受賞した辻井氏は幼少の頃からの視覚障害のハンディキャップを乗り越えて私たちに素晴らしい演奏を聴かせてくれます。ショパンコンクールの授賞式の模様をテレビで見ていた私は、その演奏が洋の東西を問わず人の心を揺さぶる様子を見ました。人は圧倒的な何かに打ちのめされ、賞のプレゼンターは思わず彼を抱きしめていました。辻井氏の演奏を2枚組のCDに納めた“Debut”が発売され、私は毎晩聴いています。そのDisk2

に入っている“花水木の咲く頃”は辻井氏が即興で創った曲だそうで、私の一番のお気に入りです。仕事で疲れたときはこの曲を聴くことにしています。モチーフが盛り上がるにつれて、ピアノのタッチはより優しくなっていくのがとても印象的です。ご両親に受けた愛情の豊かさを想像してしまいます。ご両親の温かい愛情と、多くの出会いによって辻井氏の音楽は他の誰にも真似の出来ない世界を創造しました。この“花水木の咲く頃”を聴いていると巷に溢れているアーティストという言葉さえ軽薄に思えてきます。辻井氏は今後、自分自身でどのような音楽を創っていくのかが問われているのだと思います。Disk2の後半に収録されている多くの曲は男性らしい力強い曲が多く、何だか安心します。辻井氏の踏み出す一歩がきこえてきます。



「鈍鈍楽」と「屈屈伸」



広報委員（南部地区医師会）
照屋 勉

あけましておめでとうございます。何やら、全世界的に怪しい激しい波乱含みの新年のスタートであります。

昨年は、大方の予想通り(?)「政権交代!」が現実のものとなり、いろいろな意味で激動の一年でした。「鳩山内閣」誕生後、普天間基地移設問題(県内? 県外? 国外?)、ダム建設中

止問題（もったいないけど、しかたがない！ダムはムダ！？）、JAL～OB企業年金問題（“親方日の丸”の成れの果て！？公的資金の注入は？）、事業仕分け作業問題（今回の仕分け作業を「体育館民主主義」と言うらしい…！）、円高・株安・デフレ問題（新語：ドバイショック！）などなど…。「鳩山・民主党」のお手並み拝見…といったところでしょうか？

さてさて、小生の今年のテーマは、「鈍鈍楽」(by 城山三郎氏)…。「鈍」：人間関係に気を使わない！「鈍」：周りから何を言われても気にしない！「楽」：すると気が楽になり楽しくなります！…というものです。落ち込まず、「はいはい！」と元気に返事をして、よく眠り、よく図に乗り、鈍い腸を持ち、誠実さを持ち、常に前向きに、人を許して、感謝して、不快感を飲み込み、「鋭さ」と「ナイーブさ」に磨きをかけるという…「鈍感力」(by 渡辺淳一氏)を身につけて、「なんくる、なんくる！」の気持ちを大切にすれば、どん（鈍）どん（鈍）楽しくなるはずです。

もうひとつのテーマは、「屈屈伸」…。成長するために、「屈」して、「屈」して、そして、さらに「伸」びる…。「1勝2敗の失敗学！」(by 城内実氏)…。失敗学！～失敗から学ぶ！～失敗を楽しむ！～前向きの失敗！～失敗は必ず解決策を連れてくる！～失敗のすすめ！（これが結論です！）…。さらなる激震が走るであろう2010年は、「鈍鈍楽」と「屈屈伸」で乗り切っていきたいと思っております。今年も、ゆたしくゆたしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

広報委員（国療沖縄公務員医師会）
久場 睦夫

新年あけましておめでとうございます。
旧年は新型インフルエンザにかなり振り回さ

れてしまいました。いや、今年も未だ続いておられます。特に県福祉保健部や小児科の先生方、救急病院の先生方、ご苦労様です。

さて、去年は政権交代があり、予算執行について様々な改革がなされつつあるように思いますが、今年こそは医療界がよい方向に向かっていってほしいものです。鳩山内閣は‘コンクリートからヒトへ’とのスローガンを掲げていますが、それを是非実践し、ゆとりある真に暖かい医療が実現できるような社会になし得てもらいたいと思います。

新型インフルエンザの危惧はまだまだ続いておられますが、医師会の先生方には健康に留意され、この難事を乗り切られるよう祈念いたします。

今年も先行き不明瞭な事が多々あるかと思いますが、この医師会報を通し、連携を密に医療の向上に努めましょう。

本年もよろしくお願い申し上げます。



新春のごあいさつ

広報委員（琉球大学医師会）
鈴木 幹男

沖縄県医師会会員の皆様、明けましておめでとうございます。師走の慌ただしさから抜け出してゆっくり過ごされていることと思います。

2009年を振り返りますと、スポーツではサムライジャパンのWBC2連覇、サッカーのW杯出場決定など沈みがちな世相を吹き飛ばす活躍がありました。フィギュアスケートの浅田真央選手の不調が気になりますが、2010年のバンクーバー冬季オリンピックではたくさんの日本人選手が活躍してくれることを期待しています。

去年は新型インフルエンザも大きな社会問題になりました。インフルエンザの国内初感染患者さんは長期間隔離状態におかれ、私たちも海外渡航や学会出張の制限など大きな影響をうけ

ました。その後の経過をみると、インフルエンザそのものよりも、情報がないことや社会のパニック状態の方が恐ろしいことを痛感しました。これでSARSが発生したらどうなるのか？ そうならないように祈るばかりです。

一方、政治の世界では大きな変化が訪れました。Change! Yes, we can.をスローガンにしたオバマ氏が大統領に就任し新しい時代の到来を予感させます。その後のアメリカ合衆国をみると、確かにブッシュ時代と比べると対外姿勢は変化してきているようです。また日本では民主党が政権を奪取し、我々医療界にも大きな変化が訪れようとしています。年末にはこれまでになかった事業仕分けの様子が連日メディアに流れました。ハコものに代表される無駄な事業は確かに多いようですが、私には必要なところまで切り込み過ぎているようにも見えます。特に、科学技術分野に関しては、費用対効果の見積もりも大事ですが、先端技術を支える大きな裾野がないと本当に素晴らしいものは生まれにくいように思います。政権交代からまださほど経過していませんが普天間問題を含め政策のぶれが大きく、不透明感はむしろ強くなっているように感じます。民主党政権が進める改革が医療・国民生活にとってよい方向へすすむか2010年は日本の試金石となります。ぜひYes, we canといきたいものです。

新春から堅い話になりましたが、皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、新春のごあいさつとさせていただきます。



新しい10年

広報委員（那覇市立病院医師会）
豊見山 直樹

会員の皆様、あけましておめでとうございます。
21世紀も、first decadeが過ぎ去り、2010

年、もう新世紀と呼べない年数がたって参りました。昭和とともに20世紀もだいぶ遠のいてきた感があります。

東西冷戦の終結で迎えた期待の世紀は、逆に世界各地で紛争に明け暮れた始まりとなってしまう、環境問題、世界経済、右往左往の10年だったように思います。

医療業界も、激変の10年でした。臨床研修制度にともなう医局制度の崩壊、若い医師の流動化と偏在などの問題のみならず、DPC、ジェネリック医薬品、医療安全管理、医療財政と資源、クリニカルパス、外国人看護師…この10年、様々な変化と変革、医療問題が、日々の診療に押し入ってきて、ただでも少ない時間をさらに搾り取られていくような感じがありました。こんなに慌てて、いい方向への舵取りなのか悪い方向への舵取りなのかよくわからないまま、ただ祭りの行列に乗り遅れまいと走り回っている感じがしています。

激動の10年も終盤に差し掛かり、昨年来、いろいろな“Change”があちらこちらで始まっています。この10年の様々な分野のパラダイムシフトが本物の光をもたらすのか。

これから迎えるsecond decadeは、結実をみたい10年です。



謹賀新年

広報委員（沖縄県公務員医師会）
上田 真

新年あけましておめでとうございます。私は主に公務員医師会会員に原稿の依頼、各種原稿のチェック、会議参加を行って来ました。中心になる委員の先生は会議以外でもインタビューや報告をこなしておられいつもながらそのお仕事に敬服しております。それでは今年もよろしくお願ひします。